

CASBEE®名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ブラザー工業株式会社 瑞穂建替プロジェクト	階数	地上8F
建設地	名古屋市瑞穂区河岸1丁目101番	構造	RC造
用途地域	準工業地域、近隣商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	3,480 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年7月 予定	評価の実施日	2024年5月27日
敷地面積	24,775 m ²	作成者	
建築面積	11,478 m ²	確認日	2024年5月27日
延床面積	69,313 m ²	確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 3.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)		2-4 中項目の評価(バーチャート)	
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境		Q のスコア = 3.8 LR のスコア = 4.2	
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5		Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.9	
Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.0		LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.6	
LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.1		LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7	
3 設計上の配慮事項 総合 ・名古屋瑞穂区にあるブラザー工業(株)の建替ビルである。 ・外観デザインにより、周辺の建物と調和したまちなみを形成している。 ・敷地内に積極的な緑化を行う事で緑による良好な景観形成をしている。		その他	
Q1 室内環境 ・遮音性能の高いサッシを採用している。		Q2 サービス性能 ・リフレッシュスペースを設け、執務者の快適性に配慮している。	
Q3 室外環境(敷地内) ・自生種や食餌木植物の採用により、生物環境の保全と創出に配慮している。		LR1 エネルギー ・建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。 ・高効率機器を採用し、設備システムの高効率化に配慮している。	
LR2 資源・マテリアル ・節水器具や省水型機器を用いることで水資源保護に配慮している。 ・再利用可能な部材を採用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。		LR3 敷地外環境 ・燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を排出しないよう配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

フラザー工業株式会社 瑞穂建替プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				4.1
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 3.5



3. 循環型社会

評価点 = 4.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。